



青森県教育委員会

1 ライフデザインセミナーの開催状況

ライフデザインセミナーは、55歳以上の教職員および家族を対象とした「退職準備型」と全年齢の教職員および家族を対象とした「生活充実型」の2種類のセミナーを開催しています。

平成29年度は、「退職準備型」を3会場で、「生活充実型」を2会場で開催しました。

2 セミナーの実施内容 (プログラム等)

(1) 【退職準備型】

対象者：55歳以上の教職員および家族

会場	開催日	参加人数
弘前会場 弘前市民文化交流館	7月25日(火)	58人
青森会場 ラ・プラス青い森	7月26日(水)	36人
八戸会場 グランドサンピア八戸	7月27日(木)	60人

プログラムおよび内容：外部講師による講義

9:20～9:30	開会
9:30～10:30	生涯生活設計づくりに向けて・健康プラン
10:40～11:40	生きがいプラン
12:50～13:50	経済生活プラン(公的年金制度)
14:00～14:40	経済生活プラン(退職後の医療保険)
14:50～16:00	経済生活プラン(経済生活設計表の作成)
16:00～16:30	閉会・個別相談

(2) 【生活充実型】

対象者：教職員および家族

会場	開催日	参加人数
八戸会場 グランドサンピア八戸	11月25日(土)	21人
青森会場 アップルパレス青森	12月2日(土)	26人

プログラムおよび内容：外部講師による講義

9:00～9:10	開会
9:10～12:00	ライフプランと資産管理
12:00～12:30	閉会・個別相談

3 工夫している点

より多くの教職員が参加できるように、開催時期は夏季休業中または週休日とし、開催場所も地区ごとに設定しています。

また、対象年齢を設け、参加者の年代に合わせた講義内容を設定するため、「退職準備型」と「生活充実型」の2種類のセミナーを開催しています。

平成29年度からは、両セミナーの参加対象を「教職員および被扶養者」から「教職員および家族」と拡大し、ライフプランについて考える機会の提供に努めています。

4 参加者の反応・アンケート結果

セミナー終了後、次年度の参考とするため、参加者にアンケートの協力をお願いしています。

参加者からは以下のような感想をいただきました。

【退職準備型】

- ・退職後の生活について視野を広げることができた。
- ・今の生活を見つめ直し、退職に備えようと思うきっかけになった。
- ・自分の課題が明確になった。
- ・今後の生活設計をじっくり考えるよい機会になった。
- ・退職後の医療保険や支出について勉強になった。

【生活充実型】

- ・ライフプランの基本的な話がとても参考になった。
- ・今後を考えるよい機会になった。
- ・具体的な話が多く勉強になった。自助努力が必要ということがよく分かった。

青森県教育委員会では、公立学校共済組合青森支部との共催により、教職員の生涯生活設計への関心を高めるとともに、教職員が自らの課題・問題点を明確にし、在職中から退職後までを見通したライフプランを設計できるように、ライフプラン作成に必要な知識や情報の提供を目的としたライフデザインセミナーを開催しています。

どちらのセミナーも9割を超える方々から、「参考になった」との感想をいただきました。

また、一方で「(セミナー)内容が一般的である」、「具体的にどうすればよいのかわからない」など、個々の事情を勘案した細やかなセミナー内容を希望する声もありました。

ほかには、「もっと早くセミナーを受けたかった」、「20代から受けられたら人生が充実すると思われる」など、早い年代でのセミナー受講の必要性をうかがえる意見や、「生涯生活の設計の部分については、退職者だけでなく、初任者、5年経験者、中堅者にとっても必要な内容と考えられるため、内容を精査した上でプログラミングし悉皆(しっかい)研修にした方がよい」という意見もいただきました。

5 今後の課題

セミナー参加者の年齢層について、55歳以上を対象とした「退職準備型」は、退職後の生活について特化しており、経済設計をはじめ、生きがいや健康をテーマにした講義としており、参加者の7割近くを59歳以上の方々が占めています。

全年齢を対象とし、ライフプランの基礎知識と資産運用をテーマとした「生活充実型」の参加者も50歳代の方々が7割を占めており、20・30歳代の参加者は全体の1割でした。

両セミナーの参加状況から、在職中の早い段階から生涯を見通した生活設計づくりへの関心を高めることが課題となっています。早い年代でのセミナーへの参加を促す周知方法について検討し、改善を図っていく必要があります。

また、各年代ごとのライフプラン設計の重要性から、

「生活充実型」におけるテーマの設定についても検討する必要があります。

教職員の生涯生活設計への関心を高める周知方法の検討、参加しやすい実施時期、実施場所、実施回数についても検討し、教職員一人ひとりがより豊かな人生を送れるよう支援を行っていききたいと考えております。



(青森県教育庁 職員福利課 総務・健康支援グループ
主査 前田 教乃)